

じりじた
「自利自他」

♡思いやりの心をそだてる♡

一人一人が思いやりのある豊かな心を持って生活し、自分に与えられたことでなくても、自分でできることは進んでするようにしましょう。

お知らせ
お盆休み（希望保育）の前の8月10日（木）は布団や着替えの持ち帰りをします。土曜登園されるご家庭は10日（木）までにお知らせ下さい。なお、土曜利用の方は土曜日に布団の持ち帰りをします。

子どもたちが楽しみにしていたプールが始まりました。コロナ禍ではずっとプール使用がなかった為、久しぶりに沢山の水で、水を掛け合ったり、顔をつけたりして遊びとっても楽しそうな子どもたちです。

お盆～ご先祖様に「ありがとうございます」～

お盆は、正式には盂蘭盆会(うらぼんえ)といわれ、亡くなった人の「み魂」をお迎えしてご供養する行事のことです。地域によって日は違いますが、8月の13日～15日(16日)頃まで行います。

昔、お釈迦様のお弟子で「神通第一」といわれた目連尊者(もくれんそんじゃ)が、ある日亡くなった自分の母親がどう過ごしているのか神通力で見emることになりました。すると、お母さんは地獄へ落ちて食べ物もなく飢えて苦しんでいます。目連尊者が神通力で食べ物や飲み物を差し出しましたが、口に入れようとすると次々に炎に変わってしまい、母親はどうしても食べることができません。

そこで、どうしたら助けることができるのかお釈迦様に尋ねました。お釈迦様は、「雨季に修行をしている僧侶たちの修行が明ける時、その僧侶たちに食べ物を施して供養すれば、お母さんは苦しみから救われますよ」と説かれました。そして、「同じように食べ物や飲み物を盆に持って過去の先祖から父母までを供養しなさい。そうすれば、その功德によって多くの魂が苦しみから救われ、今生きている人たちも更なる幸福が得られるでしょう」と説かれました。

これがお盆の行事の始まりと言われていいます。私たちは多くのご先祖様のおかげによって生かされています。その年長のご恩に報いる日がお盆なのです。

保育園でもお盆の前の終わりの集いでは、子どもたちにご先祖様との命の繋がりを知らせ、自分が生かされていることに感謝の気持ちを持てるようにお話しています。

こんな意味が込められています

- きゅうりの馬
「早く魂がかえってくるように」
- なすの牛
「少しでも遅く魂がかえるように」
- 盆踊り
盆踊りの由来はお盆に帰ってきた先祖の霊を慰める霊鎮め(たましずめ)です。500年以上も前続いていて今日へ大切に受け継がれてきた文化です。
- お墓参り
命をつなげていただいたご先祖様に手を合わせ、頭をさげて感謝しましょう。

浜田海上保安部から保護者様へのお願い～海で安全に楽しむために、次のことを守りましょう～(周知依頼)

◎子供から絶対に目を離さないようにしましょう！→保護者が必ず付き添いましょう。→子供は危険が近づいても察知することができません。→小さい波でも足をすくわれ、溺れる事があります。

◎ライフジャケットを着用しましょう！

釣り具店・ホームセンター等で購入することができます！→身体(体重)に合ったものを選びましょう

※注意事項の詳細についてはウォーターセーフティーガイドをご覧ください。



2名のお友達のお祝いをしました。自己紹介をしたり、大きくなったらなりたいものを教えてくれたり、兄弟の紹介もしました。お楽しみは柳先生がエプロンシアターやシルエットクイズをしてくれ、嬉しそうに答えを考え、答えていた子どもたちでした。

お知らせ

◎7月1日より給食の日原先生が育休復帰しました。よろしくお祈りします。

◎7月20日(木)に巡回訪問(2回目)があり保健師、他各関係機関が来園されました。



楽しく身体を動かしましょう！～幼児期運動指針より～

7月12日にばら組の子どもたちは雲南市のランソテの方に来園して頂きボールを使って身体を動かす「アソボール」を行いました。幼児期は、いろいろな動きが身につけやすい時期といわれ、多様な動きを経験しておくことが将来の体力や運動能力向上に役立ちます。※アソボールプログラム親子運動編も是非ご覧ください。

あるく	はしる	はねる	すべる	とぶ	たつ	おきる	まわる	くむ	わたる
のぼる	くぐる	はう	およぐ	ぶらさがる	さかだちする	のる	うく		
もつ	ささえる	はこぶ	おす	おさえる	こぐ				
つかむ	あてる	とる	わたす	つむ	ほる				
ふる	なげる	うつ	ける	ひく	たおす				

移動する動き
操作する動き

これらは、幼児の遊びや生活の中に取り入れたいとされている36の動きです。普段の子どもたちの姿にはどのくらいこれらの動きが見られるでしょうか？意外とたくさんの動きを子どもたちは日々の生活や遊びの中でしていることに気付かれると思います。こういったひとつひとつの動きを意識してみるとまた親子遊びの幅が広がって、楽しくなるかもしれませんね。